日商簿記検定２級講座

工業簿記

【第２回】

工業簿記の基礎

工業簿記の勘定連絡図

第２回講義の内容

テーマ０１	工業簿記の基礎	２ページ
テーマ０２	工業簿記の勘定連絡図	１２ページ

1　2．工業簿記と原価計算（P3）

2級工業簿記で学ぶこと	
第１：	第２：

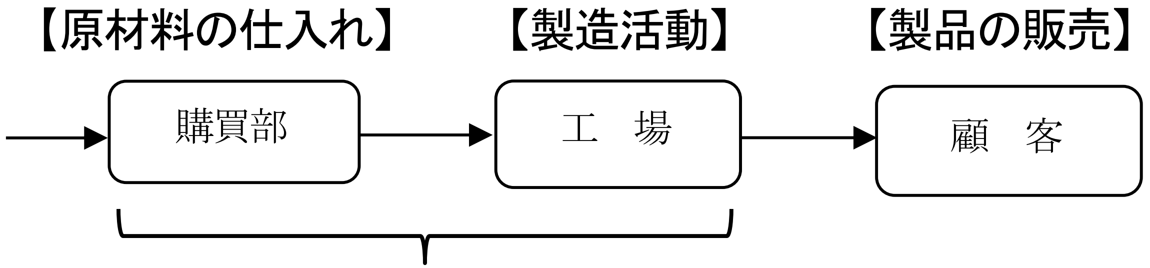
3．原価計算期間（P3）

→１ヶ月間で計算

2　原価とは（P4）

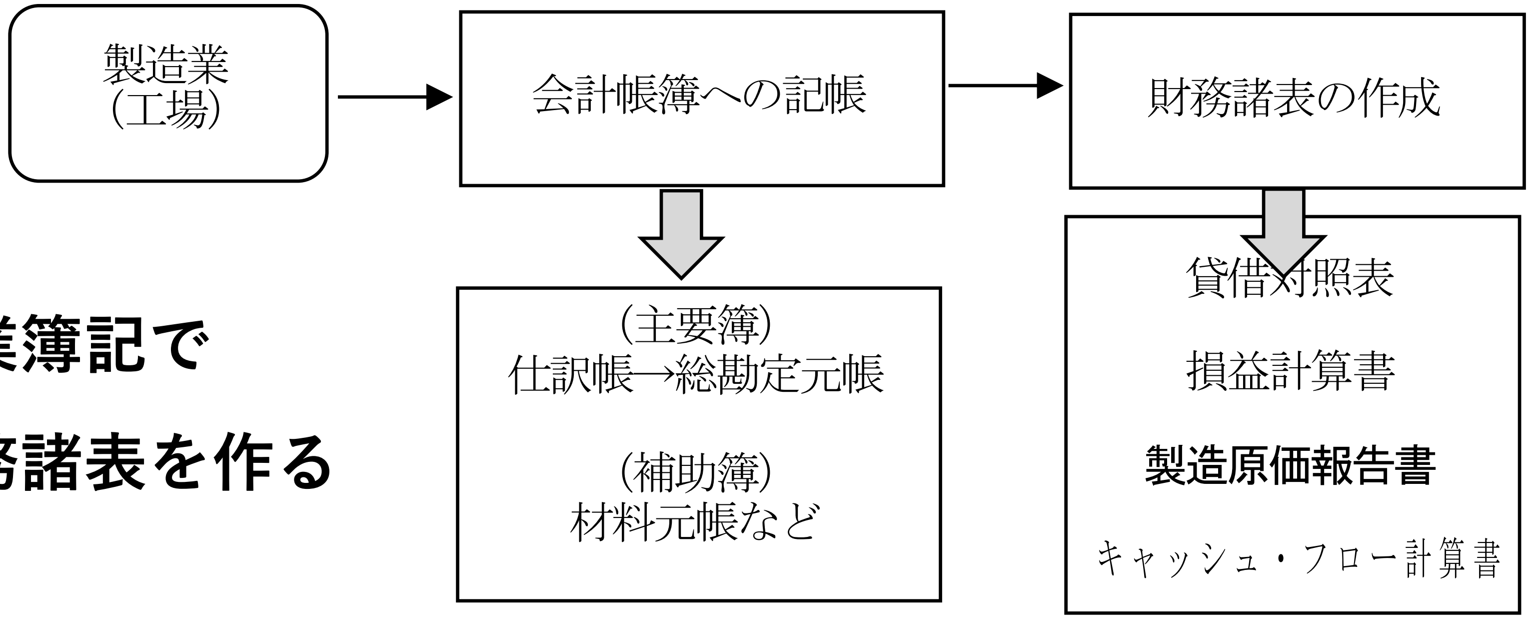
販管費	総原価
製造原価	

工業簿記とは



①製造活動でかかった製品原価を計算する必要

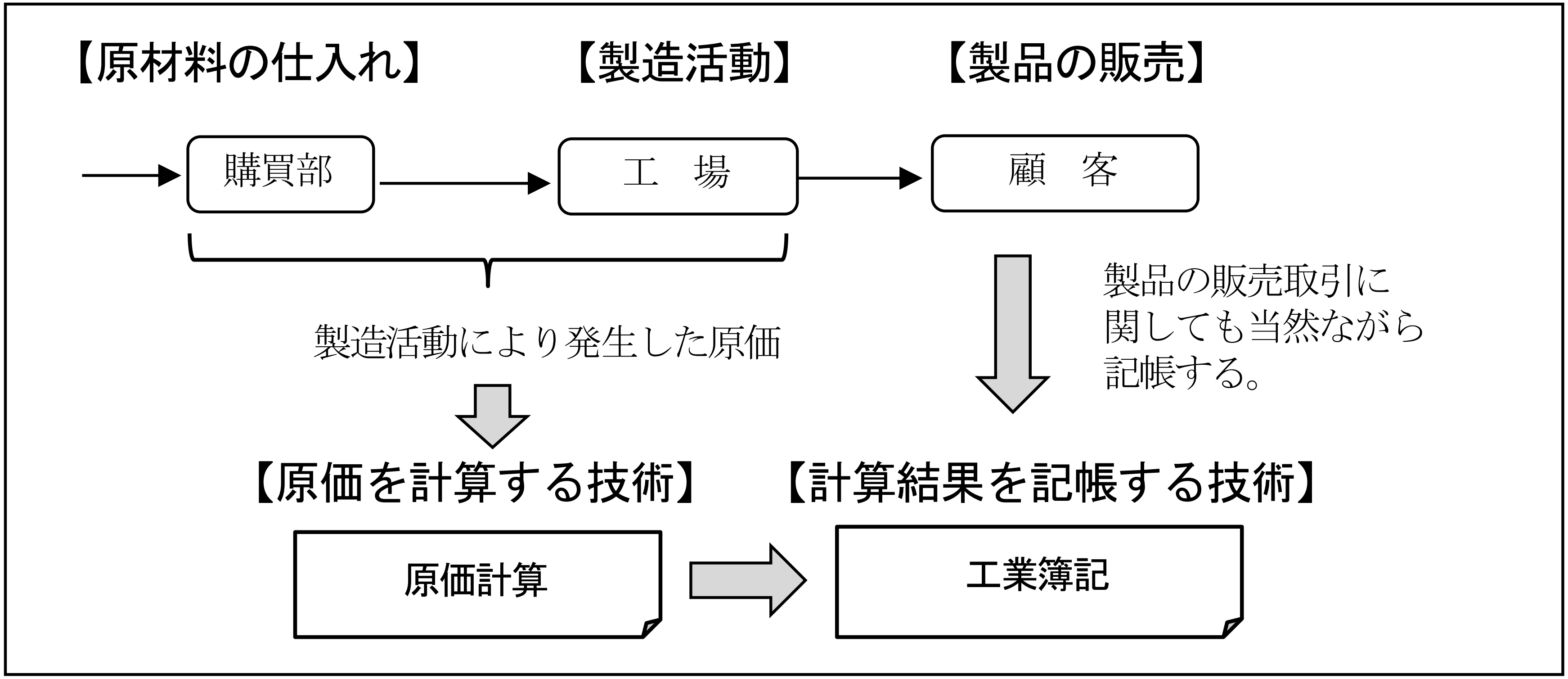
②製品原価の計算と販売により利益計算を帳簿に記録し、報告する必要



工業簿記で

財務諸表を作る

工業簿記で学ぶこと



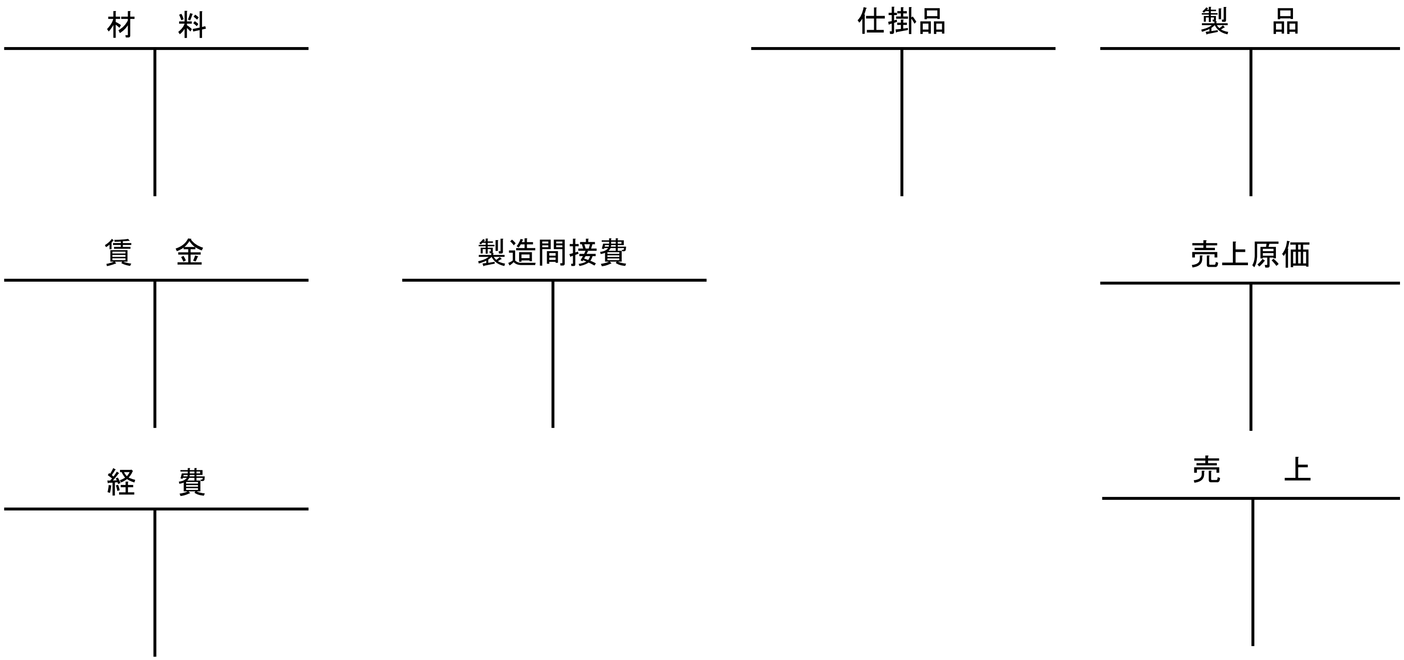
工業簿記で問われる内容	⑴製品原価の計算（原価計算）
	⑵仕訳や勘定記入（帳簿記入）

3　製造原価の分類（P6）

形態別分類		製品との関連における分類			
		製造直接費	具体例	製造間接費	具体例
	材料費140	直接材料費80	鉄・木材など	間接材料費60	接着剤など
	労務費100	直接労務費50	直接工賃金	間接労務費50	事務部門の給与
	経費380	直接経費80	外注費	間接経費300	機械減価償却費

総勘定元帳

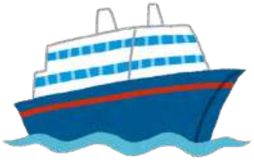
勘定連絡図（P12）



4 個別原価と総合原価計算（P8）

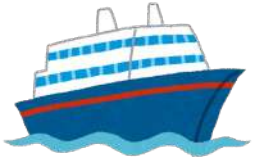
原価計算の種類

製品別計
- 個 別 原 価 →個別受注の生産形態に適用
- 総合原価計 →大量生産の生産形態に適用



特徴＼形態	個別原価計算	総合原価計算
生　産　形　態	**個別受注生産**	**市場見込生産**
計　算　対　象	特定生産品 ―job（個別製品）―	一定期間の生産品 ―Process 全体―
計 算 の 特 徴	直接費の直課と、間接費の配賦	完成品と仕掛品への配分計算
適　用　業　種	造船業、建設業、機械製造業	食品産業、加工組立型産業等

個別原価計算の考え方を理解しよう（P8）



【計算例】

造船業を営む当社は、顧客から豪華客船とタンカー製造の受注を受けた。
当該２隻の船を製造するためにかかった費用は以下のとおりであった。

（製造に関して発生した費用）なお、すべて完成しているものとする。

１．材料代（鉄鋼材）＝材料費

⑴材料代の単価：１万円／トン

⑵総消費数量 100 トン（内訳：豪華客船 40 トン、タンカー60 トン）

⑶材料費：１万円／トン×100 トン＝100 万円

２．工員の賃金＝労務費

⑴賃率：1,000 円／時間

⑵総作業時間 3,000 時間（内訳：豪華客船 1,200 時間、タンカー1,800 時間）

⑶労務費：1,000 円／時間×3,000 時間＝300 万円

３．機械設備の減価償却費＝経費

⑴経費：減価償却費 100 万円（２隻の船に共通して発生している）

⑵工員の作業時間と関連しているため、**上記２の作業時間の割合**で配賦する。

２隻の船を作るのにかかった原価

材料費 100 万円
労務費 300 万円
経　費 100 万円
製造原価 500 万円

それぞれの船に原価を配分する

豪華客船
タンカー

A .計算表を使って原価を配分

原価計算表　　(単位 : 万円)			
	豪華客船	タンカー	合　計
①直接材料費			100
②直接労務費			300
③製造間接費			100
合　　　計			500

(計算の方法)

直　課

直　課

配　賦

B .簿記を使って原価計算を帳簿に記録する

※下記仕訳帳の金額を「勘定連絡図」
に転記してみてください。

【仕訳帳】

⑴材料費・労務費・経費の支払い

(借)	材料	100	(貸)	現金	100
(借)	賃金	300	(貸)	現金	300
(借)	経費	100	(貸)	減価償却累計額	100

⑶直接費の集計（直課）

(借)	仕掛品	400	(貸)	材料	100
			(貸)	賃金	300

⑷間接費の製造間接費勘定への振り替え

(借)	製造間接費	100	(貸)	経費	100

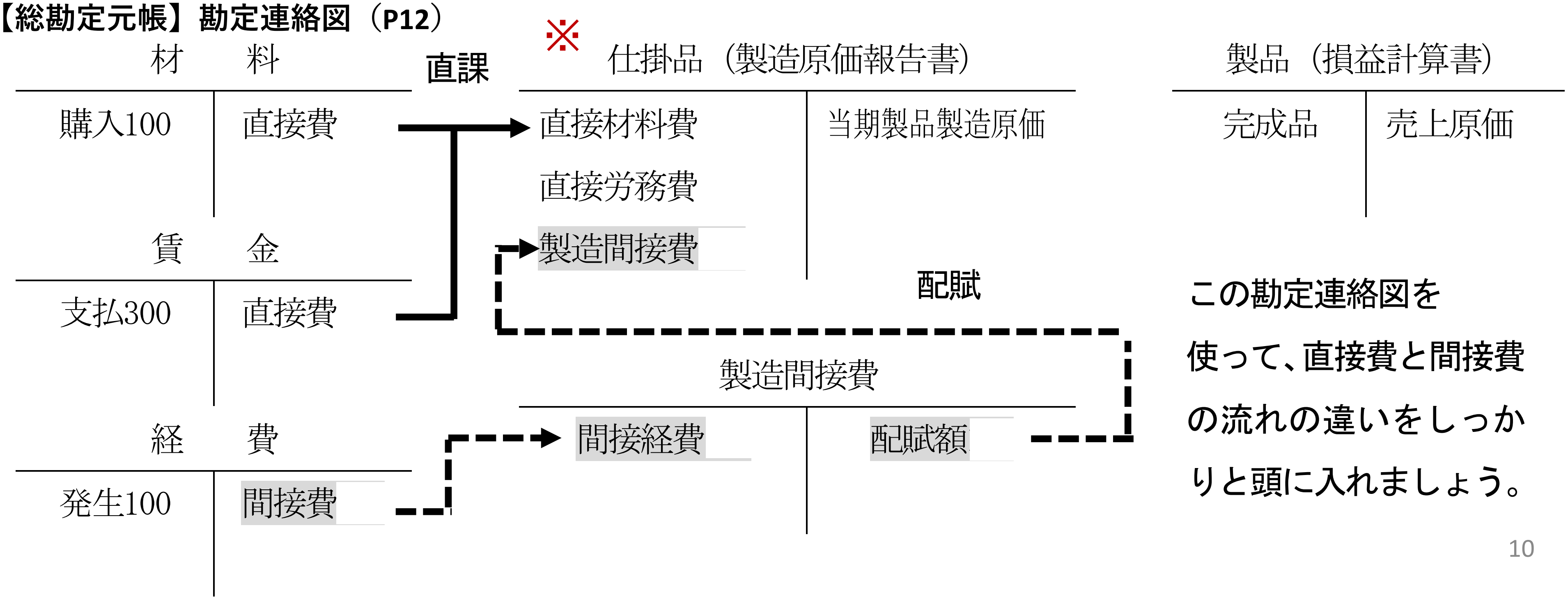
⑸製造間接費勘定の仕掛品勘定への振り替え（配賦）

(借)	仕掛品	100	(貸)	製造間接費	100

⑹完成品原価の製品勘定への振り替え

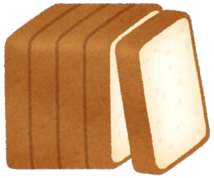
(借)	製品	100	(貸)	仕掛品	500

【総勘定元帳】勘定連絡図（P12）



この勘定連絡図を使って、直接費と間接費の流れの違いをしっかりと頭に入れましょう。

総合原価計算の考え方を理解しよう（P10）



【計算例】

食品業を営む当社は、食パンの大量生産を行なっている。今月において 1,000 枚のパンを生産したが、その製造にかかった費用は以下のとおりであった。

【製造に関して発生した費用】

１．材料代（小麦粉）

⑴材料代の単価：100 円／kg

⑵総消費数量 10 kg

⑶材料費：100 円／kg×100 kg＝10,000 円

２．工員の賃金

⑴賃率：1,000 円／時間

⑵総作業時間 40 時間

⑶労務費：1,000 円／時間×40 時間＝40,000 円

３．機械設備の減価償却費

経費：減価償却費 50,000 円

パン1,000枚を作るのにかかった原価

材料費１万円
労務費４万円
経　費５万円
製造原価 10 万円

食　パ　ン

パン１枚あたりの原価はどのように計算すればいいのか？

例えば、上記の計算例で、完成品になったものが 800 枚、仕掛かり中（製造途中のものでこれを**仕掛品**という）のものが 200 枚あり、このときに工場内で発生した製造原価が 10 万円だとしましょう。この場合、完成品の原価と仕掛品の原価を計算するために、当該 10 万円の配分計算が必要となります。

８００枚完成

２００枚未完成

パン1,000枚を作るのにかかった原価

材料費１万円
労務費４万円
経　費５万円
製造原価 10 万円

８万円

完成品の
食パン 800 枚

仕掛品（製造途中）
の食パン 200 枚

２万円

【基本例題０２】の問題の「仕訳帳への仕訳」と「総勘定元帳」への転記をやってみてください。（P14）→「帳簿記入」の話し

仕訳帳

	借方	金額	貸方	金額
⑴				
⑵				
⑶				
⑷				
⑸				
⑹				

総勘定元帳

材　料

仕掛品

製　品

賃　金

製造間接費

売上原価

経　費

売　上

月次損益